

第1回運営委員会

日時：平成24年2月4日13:00

場所：新大阪丸ビル本館4階401号室

出席者：難波、由良、石島、今田、大沼、神取、須藤、高田、瀧ノ上、出村、原田、政池、光岡、南野、村上、本間、七田、石森、神山、中村、石渡、相沢、垣内

【報告事項】

1. 平成24年度年会準備状況（本間・報1）

年会までのスケジュールが提案された。今回、公募の企画シンポジウムには、14件の応募があり、前年の24件と比べると少し減ったということが報告された。現在、1日あたりに使える講義室は10個用意してあり、また、遠くて不便なところも含めればまだ増やせないこともない。現状では、シンポジウム14件と若手奨励賞講演会だけなので2日に分けて行えば余裕があるため、追加ですることもできるとの報告があった。女性の応募や講演や外国人の講演者が少なかったので増やしてもいいのではないかとの提案もあった。また、若手関係の応募を募るのも良いのではないかとの意見もあった。現時点で応募にあった分に関しては、基本的には、運営委員会で承認された。特別講座・市民講座があるが、市民講座は年会50周年の特別講演にからめての開催というはどうかという提案があり、結果として、この案で、市民講座開催が行われることが決定した。託児所の確保（内諾）もすでに行っているとの報告が為された。

プログラム・日程についての報告があった。日程は2012年9月22日（土）から24日（月）であり、午前がシンポジウム、午後が一般講演およびポスターという日程であることが報告された。口頭発表は昨年通り英語の使用とすることが決められたとの報告があった。日程の詳細は演題の数にも依るので、状況を見て再調整することに関して、実行委員会に任せるということが承認された。24日の予備時間帯に、市民講座等を入れられる可能性もあるとの提案もあった。また、土曜のランチョンセミナーの直後の昼の時間帯に特別講演・市民講座を入れたら高校生も来ることができ良いのではないかとの提案があった。

年会登録に関しては、クレジットカードによる支払い方法はシステムの費用が掛かるが、メリットが高いので導入することになったとの報告があった。予稿集は冊子体を作成し、さらにオンラインダウンロードサービスもあるという併用運用になることが報告された。予稿集の送付に関しては、例年、中西印刷が年会参加登録者に全部送付してくれている。例年は、非会員のシンポジストの方への送付は、オーガナイザーに事前送付か当日配布かの判断を任せている。今回も、同様の方針で進めるということが決められた。学生の当日参加費用は、資料に提案された案で進めるということ承認された。非会員の方も事前登録ができるように変更するという案が提案され、中西印刷のシステムとして可能であれば対応するという方針が決められた。

口頭発表とポスター発表に関しては発表者が希望を選択するが、最終的には実行委員会で調整して決める方針であることが報告された。奨励賞応募の日程に関しては、申込の延長はさせないという方針が報告された。

年会の業務費用に関する中西印刷の見積が提示されたが、より詳細の計画書が必要なので、2月中に運営委員会に提示することが決められた。

2.平成 25 年度年会準備状況（七田・報 2 ・当日配布）

開催場所は国立京都国際会館、開催日は 2013 年 10 月 28 日から 30 日、前日 27 日に準備あるいは公開講演会を行うという日程が報告された。懇親会は、国立京都国際会館内「さくら」とグランドプリンスホテル京都から見積をとり、会場の広さや価格を含めて検討中であるとの報告がなされた。年会登録システムに関しては中西印刷から取り、年会運営に関する報告ではエー・イー企画からの見積を取り、運営方針の検討を始めたとの報告があった。

3.出版委員会報告（石島・報 3 ・当日配布）

分野別専門委員の先生に査読や編集等に関わって頂く方針が報告された。地区委員にも編集会議に参加して頂くため、編集委員会は電話、ビデオ会議等のデジタル化を進めいく方針が報告された。編集長に仕事が偏らない仕組みを作つて仕事を円滑に進める方針が報告された。

石渡氏から欧文誌 BIOPHYSICS の Editor-in-Chief として出版の現状報告があった。2011 年は 15 編掲載され、ページ数は 133 ページに増えたとの報告があり、今後もこれを増やしていくよう努力を続ける方針が示された。また、カテゴリーを新規に 3 つに増やしたことが報告された。ホームページで BIOPHYSICS 論文賞の推薦受付（3 月末締切）が告知された。推薦を元に選考委員会で最終的に 1 編選び、選ばれた著者は年会で講演でもらうという方針が示された。なお、推薦は選考委員会 10 編以内、各支部長の推薦は 1 編ずつであるとの説明があった。

ホームページ編集委員会について、相沢氏から現状報告があった。業者に業務委託しており、会長室と分担して、うまく進めているとの報告があった。コンテンツの内容については、ホームページの特性を活かしたものを作りしていく方針が示された。邦文誌生物物理とは切り分けて考える必要があるが、邦文誌の電子化と連携できるところは連携していく方針が示された。また、会長室へのアンケート機能などを付ける方針も示された。

メディカルオンラインと Medical e-hon の 2 社への邦文誌生物物理の有料配信許可がうまく機能していることが報告された。また、多少の収入になり学会にとってデメリットはないので、邦文誌だけでなく、欧文誌 BIOPHYSICS に関しても、同様に承諾することに決めたことが報告された。

4.会誌 300 号進捗報告（神取・報 4）

「生物物理」300 号記念特集号発行の進捗状況が報告された。「生物物理の未来」を主題とし、通常の号と同じ 60 ページくらいとなることが報告された。内容は、会長経験者からの寄稿、国際化に関する寄稿、中堅研究者座談会、若手奨励賞受賞者による若手からの寄稿となっており、いずれも順調に進んでいることが報告された。最後に、パネルディスカッション「生物物理、今後の 50 年」のスライドが参考資料として示された。会員数は線形に増加し、今後も発展する見通しが示された。

5.男女共同参画・若手問題検討委員会報告（由良・報5・当日配布）

6.男女共同参画学協会連絡会報告（由良・報6・当日配布）

5および6に関して、由良氏よりまとめて報告があった。2012年2月4日午前に行われた男女共同参画・若手問題検討委員会で、名古屋年会での男女共同参画シンポの話題は、ポスドクのキャリアに関するシンポジウムにする方向が決められたが、具体的な構成については今後引き続き検討していくことが報告された。

男女共同参画学協会連絡会の「東日本大震災・福島第一原発事故後にその重要性がとくに高まっている科学技術分野における男女共同参画・多様性の加速に向けての要望（案）」について、生物物理学会としては、平成24年3月11日前に提出したいとする意向を、男女共同参画学協会連絡会に回答することが提案され、承認された。

7.会員除籍と会員数の報告（須藤、神取、政池・報7）

前回運営委員会で報告のあった除籍対象会員の除籍後の、現会員数状況について報告があった。総会員数3,263名、前年比112名減となり、総会員数のピーク時の2005年から比べると、578名減少したとの報告があった。

8.会員システムの改善要望と回答（須藤、神取、政池・報8）

中西印刷への会員管理システムの改善要望と、それに対する回答について報告があった。大会システムとの連動に関しては、運用面で難しいとの回答であった。しかし、今後も要望を出していく方針であることが示された。ファイルダウンロード機能、選挙投票機能、その他、便利機能を追加していく毎に有料で対応可能なものもあるとの報告があった。今後も、優先順位を付けて改善要求に取り組んでいく方針が示された。

9.平成25・26年度学会委員候補者推薦状況報告（南野）

選挙に先立って会誌で通知済であり、学会委員の推薦受付を始めている旨が報告された。昨年度は、公募で69名候補者が推薦され、運営委員会による候補者の推薦が追加され、合計で96名の候補者が決定したという状況が説明された。今年度は現時点で13通の推薦が届いている状況が報告された。今年度も同様に進めていく方針が示された。

10.IUPAB・ABA関連報告（難波）

2014年の第18回IUPABはブリスベン（オーストラリア）で行われることが報告された。9月オーストラリアを訪問し覚え書きを交わすことが決まっている。また、2017年の第19回IUPABはエディンバラ（UK）に決定したことも報告された。リオ、イスタンブル、ケベックなどによる誘致もあったが、投票によりエディンバラに決定した。

11.日本学術会議報告（難波・報11）

平成24年の日本学術会議・生物物理学分科会の委員が決定したとの報告があった。

野地氏を特任連携会員に推薦し、永山氏と並行で IUPAB の仕事を進めて頂き、その後永山氏から引き継いで頂くことが決められた旨、報告された。第 22 期の公開シンポジウムは名古屋で開催されたことが報告された。また、活動方針としては、各学会の意向を反映した、大型プロジェクトのコーディネートを行い、研究成果の社会還元を進めていく方針であることが報告された。

12.賞・助成金推薦委員会報告（由良・報 12）

第 53 回藤原賞には曾我部氏を推薦したことが報告された。山田科学振興財団は推薦者の審査中であることが報告された。第 28 回井上学術賞には、宮脇敦史氏が推薦され、受賞した旨が報告された。若手を含めて、積極的に応募するべきであるとの指摘があった。

13.法人化について（難波・報 13）

中西出版の中西専務が作成した法人化についての文書が示された。一般社団法人、公益社団法人にするかの議論があることが報告された。公益法人化は税制面での優遇はあるが、手続きが大変で、大きなもうけのある団体でないとメリットがないとの報告があった。まずは、会計に関して、法人化に詳しい税理士に相談を始めることが報告された。ワーキンググループは、片岡氏を委員長として立ち上がっており、委員長が委員を招集して、難波会長が承認するという流れになるという説明があった。

14.支部報告（支部長・報 14）

北海道支部、東北支部、中部支部、中国四国、九州支部から、会計報告・活動報告があった。活動は例年通りであったことが報告された。関東支部は、立ち上げのための第 0 回支部会を 3 月 6 日に開催予定であることが報告された。

【議題】

1. 平成 23 年度決算報告書（案）の承認（光岡・議 1）

平成 23 年度について、一般会計に関する収支決算報告があった。基本的に赤字決算であり、繰越金が前年度に比べて減少した旨が報告された。収入の部では、一般会員会費の学生会員会費が予算案よりも少なかったことが報告された。支出の部では、基本的には予算案通りだが、運営委員会費・委員会費が予算より多かったことが報告された。特別会計は、基本的には、予算案通りであるが、BIOPHYSICS 誌の掲載数が増えたことが原因で赤字になっていることが報告された。年度ごとの変動については、広告収入が減ったことが赤字体質を招いているのではないかとの指摘があった。支出を減らすようにしないと、赤字体質は改善できないとの報告があった。

24 年度予算では、ホームページ管理費を高めに設定し、今後のリニューアルの費用として確保していることが報告された。支出としては、別冊作成費が新たに加わったが、学会が中西から買い取って販売という方式に変わったためである。それに対応して、販売によ

る業務収入として増える予算案になっているということが報告された。

2. 平成 25 年度次期会長候補者の選出手続きについて（南野・議 2）

今年度会誌 3 号で平成 25 年度次期会長候補者の推薦について通知する旨、報告があった。推薦用紙は 3 月 15 日必着であることが説明された。例年通りの会長推薦の手続きの流れについて報告があり、運営委員会で承認された。

3. 平成 24・25 年度委員選挙の手続きミスについて（南野・議 3）

山縣ゆり子先生が平成 24,25 年学会員に選出されたが、被選挙権が無いにも関わらず、選出されるというミスがあったとの報告があった。山縣先生にはご辞退を頂き、また、繰り上げ当選はないとの説明があった。お詫び状をホームページ上に掲載するという提案があり、承認された。

4. 会誌の電子化について（石島・議 4）

会誌（邦文誌生物物理）の電子化に関するアンケートを行い、投票数 776 件という多数の意見を集めることができたことが報告された。会員の皆様からの真摯な回答があり、いろいろな意見を集めることができた。結果として、約 50% は紙媒体不要との意見であった。電子媒体も十分使いやすく紙媒体は不要であるとの賛成意見がある一方、紙媒体は、生物物理の顔であるので廃止には反対であるとの意見もあった。反対意見も十分尊重しながら、仕組みを作っていく方針が示された。基本方針は、しばらくは紙媒体残しつつ、並行して Web に載せて、徐々に Web に移行して冊子体の配布のウェイトを減らすという方針が示された。ただし、150 部程度は大学の図書館など用に残していく必要があるため、有料化などでこれに対応するという説明があった。また、紙媒体の方が読みやすいことは確かなので、Web 化するにはそれ相応のメリットを出さねばならないとの指摘があった。冊子体を減らすと広告もなくなるので、その辺の見積も必要であるとの指摘もあった。冊子体を減らすなら会費を減らして欲しいとの会員の意見も出るので、会員に納得の行くようなサービスにしなければならないという方針で一致した。

商業誌「タンパク質核酸酵素」がなくなり、生物系の商業ベースの邦文誌がなくなったので、生物物理だけでなく、各学会と合わせて 1 つの邦文誌を立ち上げるというような流れも検討しているとの報告があった。ただし、生物物理学学会単独の邦文誌の紙媒体は廃止する方向で検討していくことが説明された。しかし、印刷費が無くなってしまっても編集費は減らない可能性があり、150 部程度は残さなければいけないので、紙媒体をなくした際に、結局どれくらい黒字が出せるか、もう少し調査しないといけないと指摘があった。もしあまり安くならないなら、存続させてもいいので、よく検討する必要があるとの指摘があった。

さらに、J-Stage で見られるので、非会員でも読めるため、紙媒体をもらわないと、会員としてのメリットがないとの意見があった。Web での会員向けサービスを充実させる、古いアーカイブのみ J-Stage に公開し、最新のものは会員向け Web サービスでのみダウンロード

ードできるようにするなど、会員のメリットを残すべきであるとの意見で一致した。しかし、現状の中西印刷の Web システムでは、会員個人に ID・pass を与えてのサービスは難しいので、メールでのタイトル配信や、クリックして読めるようになど、簡単なところから、システム作りを検討していかないといけないと指摘があった。

5. 予稿集の電子化について（石島・議5）

例年、年会予稿集の紫ページは年会、白ページは学会が費用負担しているとの説明があった。名古屋年会では、Web 化と、紙媒体の併用のテストをし、京都年会で、それを踏まえて、どうするかを検討するという方針が示された。紙媒体の場合は発行日が書かれていれば良かったが、Web だけにする場合は特許の問題があるため注意が必要であり、法令等を調査しなければならないとの意見があった。今回は、冊子体の紫ページの最後にパスワードと ID を記載して、それを使って中西印刷の Web サイトからダウンロードしてもらうのがいいのではないかとの意見があった。形式としては、HTML と PDF があるが、HTML は、検索などに便利だが、保存に難点があり、PDF では、保存には便利だが、検索に関して HTML より良くないといったメリットデメリットがあるので、方法は現在検討中であるとの説明があった。今まででは、年会に参加しなくても、学会員全員が予稿集をもらえる（supplement としての位置づけ）があったので、今後もこの方針を続けるなら、注意して進めるべきであるとの指摘があった。特許を考えると、公的で未来永劫存続できるシステムでないと認められないし、セキュリティも確保しなければならないので、慎重な調査と検討が必要との議論があった。まず、名古屋年会でいろいろなケースを考えて、テストをしていく必要があるとの意見があった。

中西印刷・ヨシダ印刷による見積が紹介された。Web 化しても冊子体のままでも編集費（組版、デザインの料金）は減らないことに注意であると指摘があった。今回の見積ではよく分からないので、組版、PDF、印刷それぞれがいくらくらいになるかの見積を取り直す必要があるとの意見があった。

6. BIOPHYSICS 論文賞（難波）

BIOPHYSICS 論文賞の応募がまだないので、積極的に推薦・応募するよう要請があった。

7. 運営委員会の交通費について（難波）

運営委員会出席にかかる交通費の支給方法を、実費支給に変更するということが提案され、承認された。

【連絡事項】

1. 次回運営委員会日程について（難波）

2012 年 4 月 10 日（土）